

## 自己評価報告書

平成23年 5月16日現在

機関番号： 33906  
 研究種目： 若手研究（B）  
 研究期間： 2008～2011  
 課題番号： 20700571  
 研究課題名（和文） 家族および家庭における日常行動が学習意欲の形成に及ぼす影響  
 研究課題名（英文） Influence of everyday activities in family life upon cultivating eagerness for study.  
 研究代表者  
 室 雅子 (MURO MASAKO)  
 相山女学園大学・教育学部・准教授  
 研究者番号：50329645

研究分野：家族関係学  
 科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般  
 キーワード：家族関係、学習意欲

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的はいかの3点を明らかにすることである。

- (1)親子(家族)関係の良好さ、親子(家族)共有行動や会話の頻度、日常生活スタイル、親(家族)の趣味や信条等から学習意欲の形成はどれ程影響を受けているのか。
- (2)家族員等、周囲の人のどのような働きかけが各教科のどの部分(能力)を好きにさせるのか。
- (3)一度好きになったものを突き詰める日常的な習得方法、必要な環境、条件とはなにか。

これらは、過去の研究で明らかにした「家族に教科学習内容を直接教えた関連行動の有無」だけではなく、家族との親密度や生活傾向等で同じ様な行動が行われていても、人間関係によりプラス効果の度合いが違うことが新たに明らかにできると予想される。また「一度好きになった事は継続しやすい」という結果をさらに追究し、継続させている方法、具体的な趣味知識の維持方法を明らかにすることで、家庭教育と学校教育の連携した、それぞれの学習意欲形成に対する役割を見いだす意義を持つ。

## 2. 研究の進捗状況

上記1の(1)～(3)に基づいて述べる。

(1),(2)は質問紙調査の実施を20年度に実施した。改良を必要としており、再調査を予定。20年度は、家族からの影響は物事を好きにさせたり興味を持たせたりするという既存研究の結果を受け、子ども達はそもそも家族に対してどのようなイメージを持っているのか(好印象を持っている＝関係性が良い、受け入れられる状態にあるのか)について検討を行った。結果より、子どもは家族に対して好イメージ傾向にあり、家族員が好意的に接している事柄に対して一緒に行動したり素直に受け取ったりなど、影響を受ける土

壤がほぼあると推察できた。さらに、選好の阻害要因として、未知の対象自体のおもしろさ・良さに関心を示して触れても、同時または事前事後に否定的な事象が起きると対象自体を拒否するようになる場面影響、選好の促進要因として、対象を習得することに強い目的意識があると、例え既習集団より遅れていても劣等感ではなく既習集団に効率的な方法の伝授を求め、既習レベルに追いつくべく自ら学習・吸収するようになること、さらに分かるまで反復学習を行うという人的環境要因があることが明らかとなった。

(3)は21～22年度においてインタビュー調査を中心にデータ収集を行った。また、これに加え、学習意欲と到達目標との関連を調べるために、到達モデル(人)の影響による意欲の変化についても調査を実施した。結果、生活への必要度、自負や自己表現としての目的意識、頻度と刺激の強さ、家庭内資源・文化資本、学習対象の内容が実技か鑑賞かの違い、学習内容の高尚意識、仕事への連動によって、到達目標の設定(高さ)や学習や目的意識の持続と喪失等に影響を与えている傾向等が明らかとなった。また、取り組み方も主体的か受け身かによって、趣味を同じくする「集団」を求めるときもその集団へ求める目的が異なる事も推測された。

## 3. 現在までの達成度

## ③やや遅れている

おおむね調べたいことについては順に調べが進んでいるのであるが、調査を実施するにあたり、当初に想定していなかった問題(例:調査対象者を区分して複数のパターンで分析する必要性等)が生じ、その分遅れが生じたこと、内容的に調査の対象者へ依頼しにくかったこと、実施した結果から再調査をして確認したい事項が生じた

ためであると把握している。

#### 4. 今後の研究の推進方策

これまで明らかにした事項を、一つの形としてまとめることを最重要事項とし、そこで不足していると確定した情報については早急に追調査等を実施して確認する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

1. 室雅子「大学生の持つ家族イメージ」、椋山女学園大学研究論集、査読無、第 40 号(社会科学篇)、2009、pp.207-217

[学会発表] (計 2 件)

1. 室雅子、「教員養成学部におけるキャリア教育」日本家政学会、2011.5.29、和洋女子大

2. MURO Masako

“The image of the family and a family-related education effect”、Asian Regional Association for Home Economics、2009.12.12、Pune (India)

[図書] (計 2 件)

1. 室雅子、「キャリアモデルインタビュー」、椋山女学園大学女性リーダー育成・研究グループ編『女性リーダー育成のための DUEL プログラムを用いたキャリア教育の実践に関する研究』、第 3 章の 6、査読無、2011、pp.44-51

2. 吉原崇恵編著(共著)、開隆堂「生活を科学し、実践する力を育てる授業づくり 子どもがいきる家庭科」、2010、pp.119-120、121-122、123-124、144-145、183、198-199

[その他] (計 1 件)

1. 講習会講演:「日常生活と家庭科」(児童・生徒達への学習効果など)2009、椋山女学園大学